

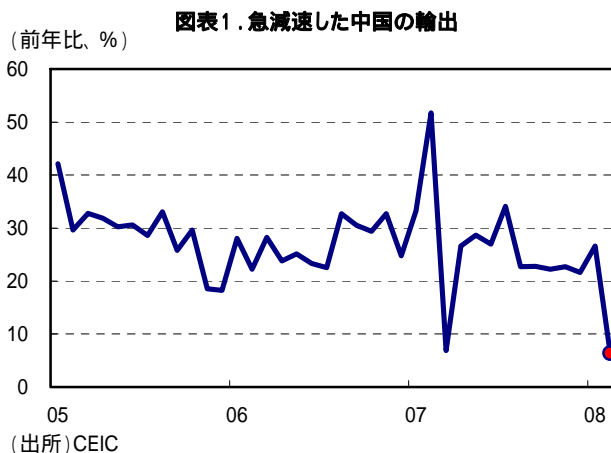
2008年3月26日

## 中国の輸出は変調をきたしているのか？

### 1. 急減速した2月の輸出

2月の輸出は前年比6.4%増と急減速した。2007年3月にその前月の駆け込み輸出の反動から伸び率が同6.9%増に鈍化した以外、中国の輸出はこれまで概ね前年比20%を上回るペースでの拡大が続いていただけに2月の一桁台の伸び率は驚きをもって受け止められている(図表1)。

2月単月の急減速には50年ぶりと言われた大雪による生産・物流の混乱といった一時的な要因が大きく影響している可能性がある。しかし同時に主要市場である米国の景気減速、今年年初来これまでにない速いテンポで進む人民元高、さらに貿易黒字削減のための政府による輸出抑制策など様々な要因の影響がここにきて一気に顕在化した可能性もある。果たしてこのまま中国の輸出は失速してしまうのだろうか。中国の最近の輸出動向についての分析をもとに以下、検討してみた。



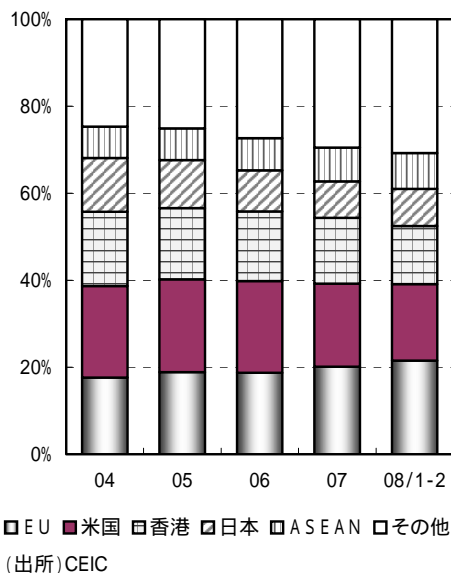
### 2. 2月は米国向けをはじめとする先進国向け輸出が総じて鈍化

まず輸出相手国別の動向を見てみると、2月は前年比5.3%減となった対米輸出の鈍化が目立つものの、EUや日本向けもそれぞれ同1.2%増、同2.9%増と前年比一桁台に大幅鈍化しており、総じて先進国向け輸出が不振であった。これに対してASEAN向けが同21.1%増、韓国同26.0%増、インド同28.0%増、ロシア同28.4%増、ブラジル同45.1%増など新興国向けの輸出は依然として前年比二桁増ペースで堅調に推移しており、両方で明暗が大きく分かれた形となった。

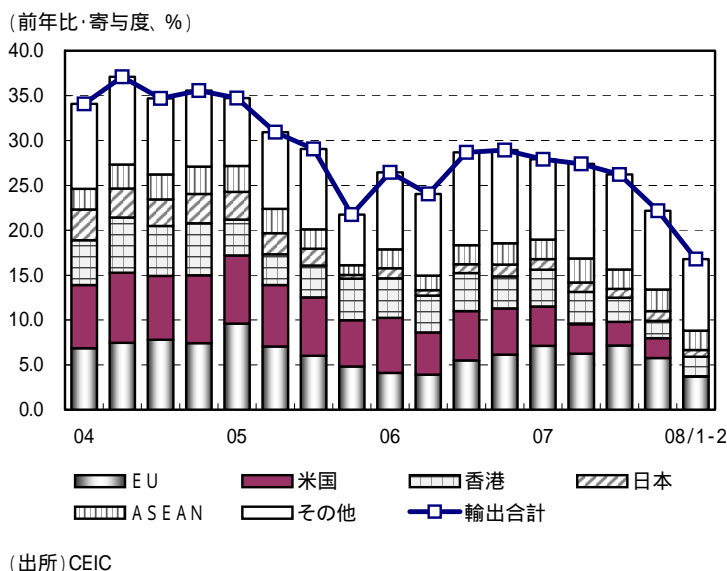
一方、輸出相手国・地域別の構成比は今年1~2月分についてもEUと米国で4割近くを占めるという状況に変化は見られない(2頁、図表2)。ただし、2007年に最大の輸出相手国が米国からEUに入れ替わり、また日本のシェアが徐々に低下する一方でASEAN並びにその他の従来は主要市場でなかった地域のシェアがゆっくりと拡大しつつある。

実際、輸出伸び率に対する米国(並びに日本)の寄与度は2005年以降低下傾向にある(図表3)。つまり中国の対米輸出の変調はサブプライムローン問題が表面化する以前から始まっている。足元、こうした基調的な変化に米国景気の減速要因が加わって対米輸出の大幅な落ち込みがもたらされたと考えられる。

図表2. 主要輸出相手国別シェアの推移



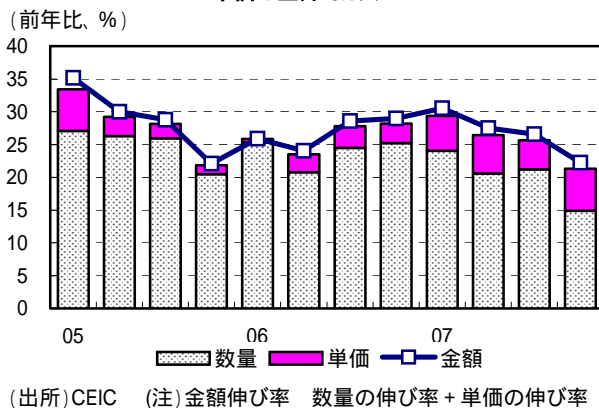
図表3. 主要輸出相手国地域別輸出寄与度の推移



### 3. 最近の輸出のもうひとつの特徴～数量の伸び悩みと単価の上昇

ところで最近の傾向としてもうひとつ注目されるのが輸出数量の頭打ち傾向を輸出単価の上昇でカバーする形で、結果として輸出金額が前年比2割増のペースで推移している点である(図表4)。輸出単価の上昇は輸出品の高級化・高付加価値化が進んでいることを示唆している可能性がある。しかし、一方で中国の生産コストの上昇を反映しているだけでその結果「安さ以外に競争力がない中国の輸出(新華社)」の数量の伸びが抑えられる原因となっている可能性もある。

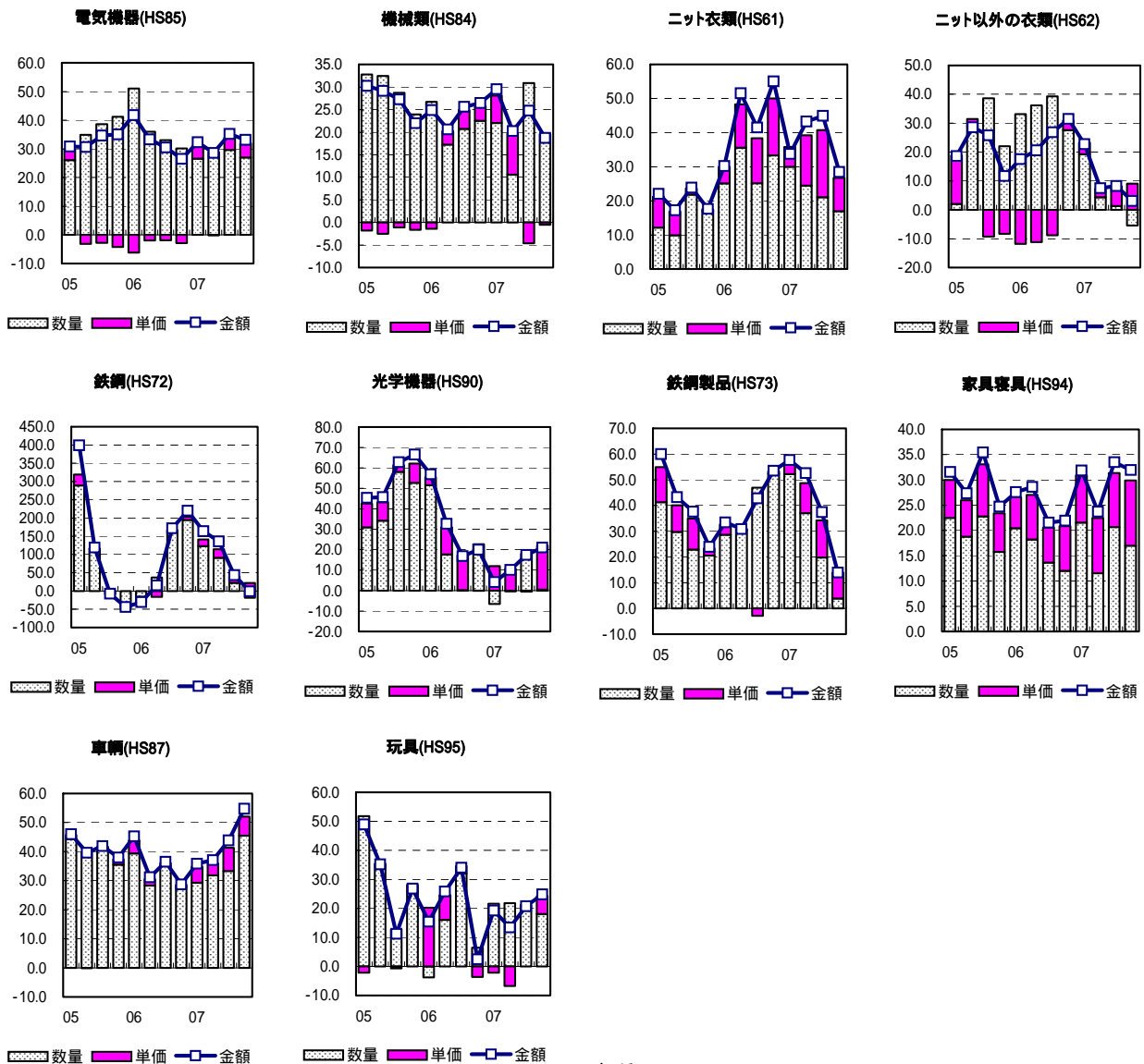
図表4. 数量の伸び鈍化を単価の上昇でカバー



そこで2007年の輸出実績の上位10に入る主要輸出品目（HS二桁分類）について同様に数量と単価の推移を見てみたのが図表5である。これを見ると輸出の約4分の1を占める電気機器（HS85）は数量ベースで堅調が続いているうえに足元は単価の上昇も加わって金額ベースで前年比3割増ペースが維持されていることがわかる。また車輛（HS87）は数量の伸びに単価の上昇が加わり金額ベースの伸びが一段と加速している。光学機器（HS90）の輸出は一旦大幅に鈍化したものの2007年に入って数量と単価の伸びが交互に輸出金額の伸びをもたらしている。家具・寝具（HS94）は数量の伸びの頭打ち傾向を単価の比較的高い上昇でカバーしている。玩具（HS95）も直近にはやや同様の傾向が見られる。

これに対して機械類（HS84）、ニット衣類（HS61）、ニット以外の衣類（HS62）は数量の伸び悩みを単価の上昇でカバーできずに輸出金額の伸び率鈍化が続いている。一方、鉄鋼（HS72）並びに鉄鋼製品（HS73）については政府の輸出抑制策により輸出そのものがほぼ停止状態にあることがわかる。

図表5. 主要輸出品目の数量並びに単価の前年比の推移



(出所)CEIC

では数量の拡大あるいは単価の上昇によって輸出金額の伸び率維持が可能な品目とそうでない品目の差をもたらしている要因はどこにあるのだろうか。各品目の商品構成（HS 四桁分類）と輸出相手国構成から考えてみた（政策によって輸出が抑え込まれている鉄鋼並びに鉄鋼製品は以下の分析対象から除外した）。

後掲の図表 7 並びに図表 8 に見られる通り、輸出金額の伸びが好調な品目では需要に合わせた品目のシフトあるいは新規市場の開拓による需要の発掘のいずれか、あるいはその両方が見られることがわかる。逆にジリ貧傾向にある品目は品目構成も市場構成も変化に乏しいようである（図表 6）。

図表 6 . 主要品目別の詳細品目・市場構成の変化と輸出の現状

HSコード/品目	2007年の輸出シェア	品目構成	市場構成	輸出の現状
85 電気機器	24.7%	大幅に変化。	輸出相手国構成に大きな変化なし。	⇒ 市場の需要動向に合わせた品目シフトで輸出数量の高い伸びを維持していると見られる。
84 機械類	18.8%	07年に印刷機器(HS8443)のシェアが拡大した以外小。	新規市場の開拓がゆっくと進んでいる。	⇒ 品目に変化乏しくジリ貧傾向。
61 セーター・Tシャツ等ニット衣類	5.0%	変化小。	新規市場の開拓が進む。	⇒ 商品の高付加価値化が進められていると見られるが、品目に変化乏しく数量頭打ちでジリ貧傾向。
62 シャツ等ニット以外の衣類	3.9%	変化小。	足元ほとんど変化が見られない。	⇒ 品目・市場ともに変化乏しくジリ貧傾向。
90 光学機器	3.0%	液晶デバイス(HS9013)のシェアが大幅に拡大。	新規市場の開拓がゆっくと進んでいる。	⇒ 液晶デバイスに対する需要拡大を背景に持ち直し傾向。
94 家具・寝具	3.0%	変化小。	米国をはじめとする先進国への依存度は低下傾向にある。	⇒ 新規市場開拓で数量・単価の伸びを維持。
87 車輛・同部品	2.6%	車輛部品(HS8708)のシェアが拡大し、自転車(HS8712)に代わって貨物自動車(HS8704)のシェア等が拡大。	その他の市場のシェアが拡大している。	⇒ 市場の需要動向に合わせた品目シフトに加えて新規市場開拓で数量・単価ともに伸びを維持している。
95 玩具類	2.2%	2005年以降構成品目に大きな変化なし。	米国市場への依存度は低下傾向にあるがそれでも07年時点で対米輸出が約4割を占めている。	⇒ ゲーム機需要の拡大が輸出の堅調を支えていると見られる。

(出所)後掲の図表 7, 8をもとに三菱UFJリサーチ & コンサルティング調査部作成。

#### 4 . 中国の輸出は当面底堅く推移しよう

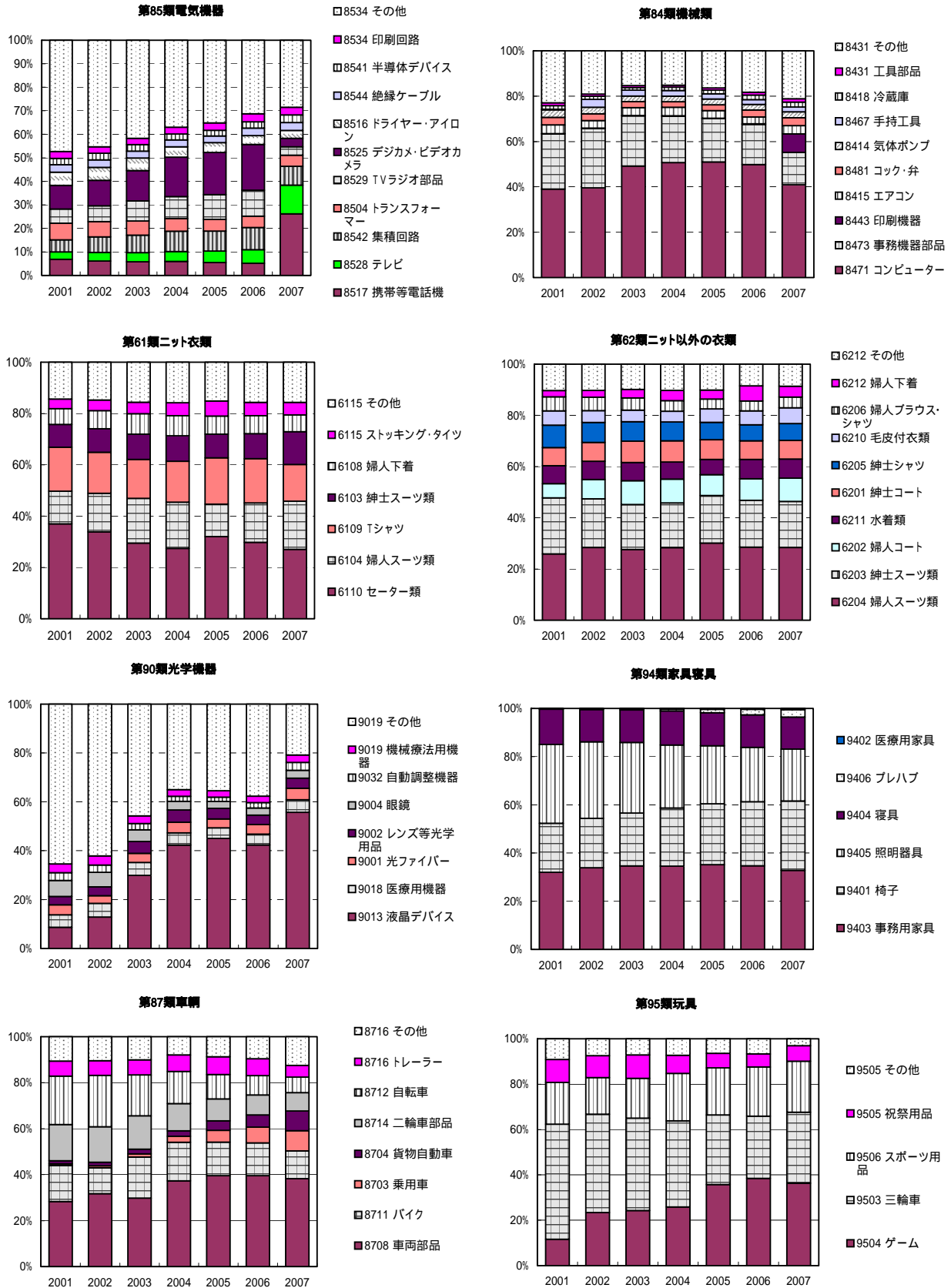
中国の輸出を取巻く環境は米国をはじめとする先進国景気の減速、中国を上回る低コスト優位性を持つ後発国の台頭、あるいは中国自身の低コスト優位性の後退などから厳しさを増している。こうした中で前述の通り、中国が生産力あるいは技術水準からも圧倒的な優位にあると言われてきた衣料品など一部の製品分野で中国の輸出にジリ貧傾向が見られるのは事実である。しかし同時に電気機器あるいは車輛などの品目で見られるように中国の底力が依然として健在な分野が存在することもまた事実である。

世界経済がそれほど深刻な不況に陥らずに推移するとすれば、中国の輸出も底力のある製品分野にリードされながら当面、底堅く推移するのではないだろうか。

調査部 野田麻里子(mariko.noda@murc.jp)

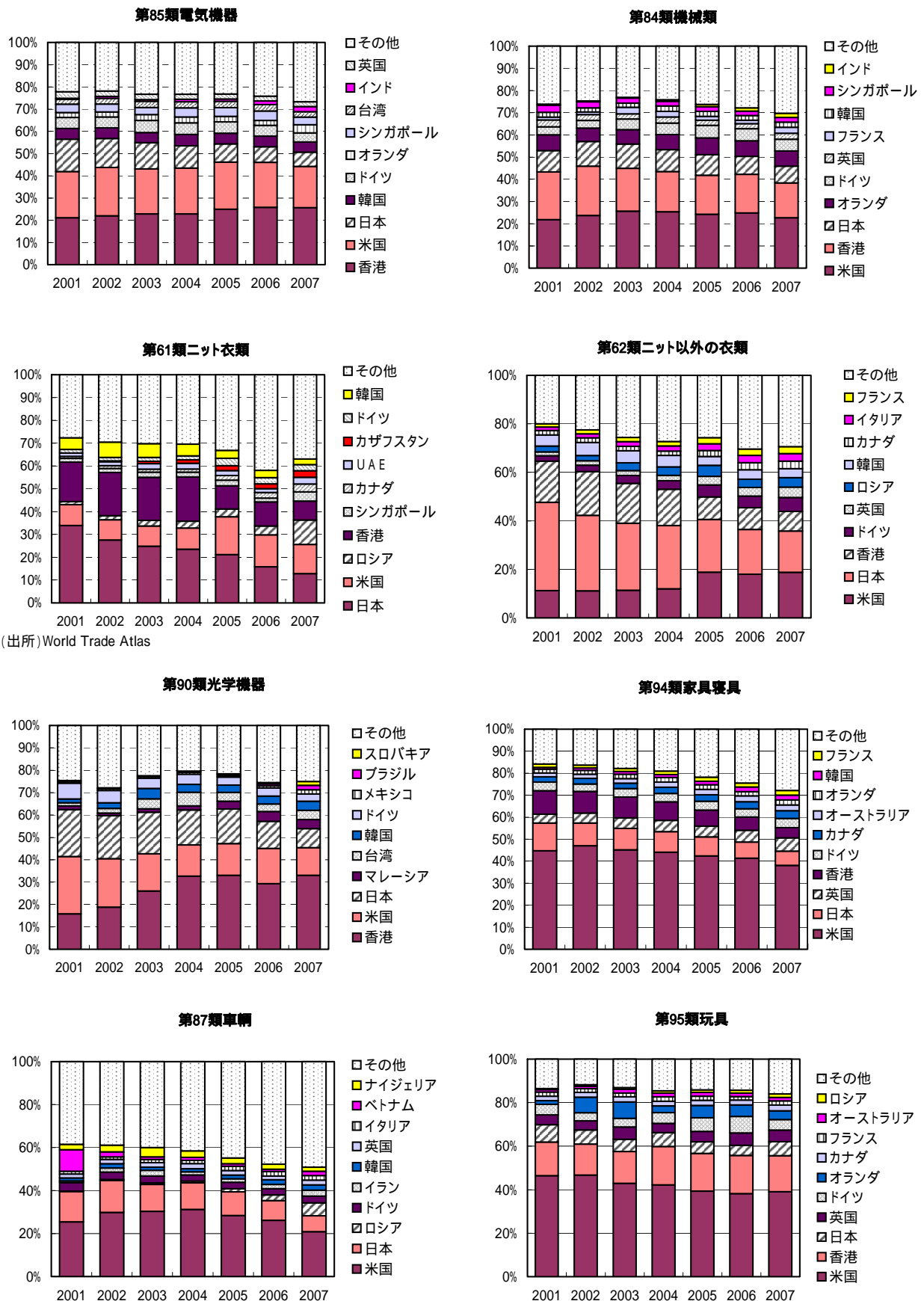
本レポートに掲載された意見・予測等は資料作成時点の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

図表7. 主要輸出品目の構成品目シェアの推移



(出所) World Trade Atlas

図表8. 主要輸出品目の主要相手国シェアの推移



(出所) World Trade Atlas

(出所) World Trade Atlas